

様式(細則 5-2)

令和2年2月26日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため、研修を受講したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 令和2年2月15日(土) 9時30分～14時30分
- 2、視察内容 ちくせんのフェス(地区別戦略実現事業報告会)
- 3、視 察 先 邑南町(田所公民館)
- 4、調査経費 交通費 3,200円(バス利用))
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり





「ちくせんのフェス（地区別戦略実現事業成果報告会）」出席のため

令和2年2月26日

1 日 時 令和2年2月15日（土）9時30分～14時30分

2 場 所 邑南町（田所公民館）

3 概 要 1)人口介護分析(持続可能な地域社会総合研究所理事長 藤山浩) 2)報告

- ①（藤山理事長）邑南町では少子化対策が功を奏し、平成26年から30年の間、48人から67人の町への移住者があり、島根県内では邑南町のほか津和野町、吉賀町、川本町、美郷町でも社会増減率が好転していること。邑南町ではサロン活動が盛んで「お達者度」が高まり、要介護度の改善、介護費用の減少に結びついている。
- ② ちくせんのフェスは、平成27年度から邑南町内12地区での事業計画を策定し、28年度から毎年中間報告会を開催し、計画策定や事業化には地区の総参加態勢をつくり、行政主導、行政に頼ることなく、住民自らが担う態勢ができ上がり、このための報告会の開催など成果を上げている。
- ③ この事業の背景は国が進める、まち・ひと・しごと創生総合戦略に対応し、町が策定する総合戦略に、各地区が策定した地区別戦略も盛り込んでいる。地区は阿須那、口羽、田所、出羽、高原、布施、市木、矢上、中野、井原、日貫、日和の公民館単位となっている。
- ④ 邑南町のコミュニティの体系は、小さい単位から215集落、39自治会、12地区（公民館区）となっており、振興協議会を組織している地区は、複数の自治会をまとめるための仕組みとして設置されている。
- ⑤ 報告会では、地域の食材を使った食べ物、ジビエ食品、三江線グッズ、ミニ四駆動など遊び道具、移動販売車「にこ丸くん」などの発表、そこに至る住民の参加、各地区での幅広い取り組みなどが紹介された。会場には12地区のブースが並び、販売、説明、PRなどを行っていた。
- ⑥ 町の補助金事務は、「キントーン」というアプリケーション（サイボウズ社）を使い、地区での支出があるごとに伝票の確認ができ、事業の趣旨や目的にそぐわない、補助対象外の支出の事前確認ができ、システムを使い地区の事務局、会計責任者とのやり取りも行っている。

4 所 見

- ① 邑南町は、人口減少率が改善してきており、平成26年から30年の間、48人から67人の町への移住者を実現しており、浜田市でもこの取り組みを参考にし、新たな施策を打つ必要がある。
- ② 邑南町の取り組みは、12の公民館で展開されており、市の公民館コミュニティセンター化を確実なものとし、公民館を単位とした地域自治を進める体制を構築する。
- ③ 邑南町では、若い人、女性、Uターン者、Iターン者、高齢者などの総参加の仕組みができており、市のまちづくり推進委員会の組織づくり、運営体制などにも参考とすべきである。
- ④ 市でも、会計事務、地区と行政のやり取りのアプリケーションについて研究し、まちづくり総合交付金、地区との連絡などの事務に活用すべきである。
- ⑤ この催しに浜田市三隅支所から、住民17人、職員7人、本庁から職員1人が視察しているが、各支所からの参加など市全体での取り組みが必要である。

—以上—